

生きものしらべの対象「トンボ」

【トンボを調査の対象とした背景】

トンボは、水中や水草に産卵します。生まれた幼虫（ヤゴ）は水中で水生生物を食べて過ごし、成虫になると広く地上を飛び回ります。

生息・生育のためには繁殖場所となる水辺や湿地、水田などのほか、十分な緑地を必要とすることから、トンボは地域の自然環境の状態を表す代表的な生きものです。

流れのない水辺を好む止水域タイプと、河川などで見られる流水域タイプがあります。水田の減少や農薬の使用による影響などで、近年、減少傾向にある種もいます。

このページでは、川崎市内で身近に確認しやすい在来種のトンボの一部を紹介しています。河川や水田、学校や公園のビオトープなどで、どんなトンボが見られて、数や種類が昔と比べてどう変わってきているのかについて、みんなで考えてみませんか？

市内の
水田や池など
で見かけやすいトンボ



掲載している写真は、かわさき生き物マップに投稿いただいたものです。（投稿者：ペンネーム gamera さん、しずくさん）

せいそうまえ
清掃前のプールやビオトープでよく見かけるヤゴ

小学校の夏前のプールや池などのビオトープではギンヤンマやクロスジギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ、アオモンイトトンボなどのヤゴを見かけることがあります。

身近な水辺で見かけたヤゴの^{じょうほう}情報についても、かわさき生き物マップへの^{とうこう}投稿をお待ちしています！

コラム 川の生きものによる水環境指標

河川の水生生物調査による簡易な市民参加型の水質調査は、国において従来から行われています。トンボでは、ムカシトンボ科、カワトンボ科、サナエトンボ科、オニヤンマ科でそれぞれスコア（点数）を設定して河川環境の評価を行っています。

川崎市では、「水辺のいきもの-かわさき-」で市内の河川で見られる底生生物と水質の関係を啓発しています。水がきれいな状態として、ハグロトンボ、コオニヤンマ、オニヤンマのヤゴを挙げています。

なお、川崎市環境局環境調整課において平成 29 年度に実施した多摩川河川敷での生き物調査で、ハグロトンボが群生しているのを確認しています。

ギンヤンマ



他にも、神奈川県レッドデータブック掲載種のヤマサナエやニホンカワトンボも市内で確認されています。

オニヤンマ



コオニヤンマ



オオアオイトトンボ



オス

ハグロトンボ

メス



2014年9月多摩区の二ヶ領用水周辺